

高等学校における道德教育のあり方に関する研究
—高校生にとっての道德規範意識と教員の道德教育観—

蜷 川 喜 信

愛知東邦大学

高等学校における道德教育のあり方に関する研究 —高校生にとっての道德規範意識と教員の道德教育観—

蜷川喜信*

—目次—

はじめに

1. 高等学校における道德教育
 - (1) 高等学校での道德教育の重要性
 - (2) 小・中・高校の道德教育の接続
 - (3) 中学校教員・高等学校教員の道德教育観
2. 高校生の道德規範意識
 - (1) 道德規範意識
 - (2) 小・中・高校生の道德規範意識の実態
 - (3) 新たな調査研究の設計

はじめに

かつて私が、高等学校で30年以上にわたって教鞭を取っていた時も、また大学で教職を目指す学生を指導している現在においても、ある種の危機感を抱き続けている。それは道德教育の蓄積の欠如である。義務教育の小・中学校では、児童・生徒の発達に応じて系統的・段階的、発展的に教育・指導されてきているはずなのに、高等学校や大学に進学してくると、途端にその蓄積があとかたもなく消滅してしまったかのような学生に、社会人としての道德規範をどのように指導すればいいのであろうか。このような問題意識を出発点にして、この研究をはじめた。

さて、平成26年10月に中央教育審議会答申「道德に係る教育課程の改善等について」を受けて、文部科学省は、平成27年3月に学校教育法施行規則を一部改正して、「道德の時間」を「特別の教科である道德」とするとともに、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の一部改正を告示した。

「今回の改正は、いじめの問題への対応の充実や発達段階をより一層踏まえた体系的なものにした内容に改善し、問題解決的な学習を取り入れるなどの指導方法の工夫を図ることにあ
る。」⁽¹⁾

つまり、発達の段階に応じ、答えが一つではない道德的な課題を一人一人の生徒が、自分自身

* 愛知東邦大学 教職支援センター

の問題と捉えて、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図ることとしている。

また、道徳科の目標は、「道徳性の育成に向けて重視すべき、より具体的な資質・能力とは何かを明確化し、発達の段階を踏まえて計画的な指導を充実する」という中央教育審議会答申の観点を基に大幅に改められ、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通じて、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」⁽²⁾とされた。

要するに、「道徳科の目標としては、道徳的諸価値について、時に対立がある場合を含めて多様な価値に向き合い、自立した個人としてまた国家・社会の形成者として、いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢と道徳性（道徳的判断力や道徳的信条、道徳の実践意欲と態度）を育てること」⁽²⁾と改められ、そして、「主体的な判断に基づいて道徳的实践を行い、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことが道徳科の目標である」⁽²⁾とされたのである。

一方、小・中学校での道徳教育の変更ともなって、高等学校における道徳教育については、小・中学校の目標（よりよく生きるための道徳性を養う）と共通にして、新たに中核的な指導場面として特別活動と新設科目の《公共》《倫理》を設定し、学習・指導内容の改善・充実が示された。次期学習指導要領等に向けた中央教育審議会の「これまでの審議のまとめ」⁽³⁾には、次のように記されている。

「高等学校については、道徳の時間を設けず学校教育全体で道徳教育を行うこととしてきた。高等学校段階の生徒は、自分の人生をどう生きればよいか、生きることの意味は何かということについて思い悩む時期であり、自分自身や自己と他者との関係、さらには、広く国家や社会について関心をもち、人間や社会の在るべき姿について考えを深める時期でもある。こうしたことに鑑み、高等学校においては、人間としての在り方生き方を考える学習を通して道徳教育の充実を図ること。」

しかし、平成26年10月の中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」⁽⁴⁾には、以下のように重要な記述がある。

「高等学校全体としては、人としての在り方や生き方に関する中核的な指導の場は、十分に担保されているとは言い難い。校長や個々の教員の力量に依存する部分が大きいという指摘もある。先んじて行われた小・中学校における学習指導要領等の一部改正の趣旨や、高等学校の公民科における「公共（仮称）」の新設など今般の学習指導要領全体の改訂の方向性を踏まえ、高等学校の道徳教育の充実について検討する必要がある。」

「高等学校学習指導要領総則の中で示している高等学校の道徳教育の目標等については、先に行われた小・中学校学習指導要領の改訂を踏まえつつ、高等学校全体で、答えが一つではない課題に誠実に向き合い、それらを自分のこととして捉え、他者と協働しながら自分の答えを見いだしていく思考力・判断力・表現力等や、これらの基になる主体性を持って多様な

人々と協働して学ぶ態度の育成が求められていることに対応し、公民科に新たに設けられる「公共（仮称）」や「倫理（仮称）」及び特別活動を、人間としての在り方生き方に関する中核的な指導場面として関連付けを図る方向で改善を行う。」

また、小・中学校からの関連については、次のように述べられている。

「高等学校における道徳教育については、小・中学校のように道徳科を特設しておらず、指導する内容項目等は示されていないが、学校全体で行う道徳教育の全体計画を作成、実施するに当たっては、小・中学校の内容項目とのつながりを意識することが求められる。その上で、高等学校の共通性と多様性ということを考慮すると、各高等学校において全体計画を作成、実施するに当たっては、各学校や生徒の実態に応じて、内容を網羅するのではなく重点化して示すことが重要である。」

このように、次期学習指導要領に向けて、道徳教育についての新たな改善・改革が起りつつある。そこで、今回の研究では、中学校、そして高等学校での道徳教育の実態や学校現場で教育・指導している教員からの聞き取り調査等とおして、改めて高等学校における道徳教育・道徳規範意識教育の問題点を指摘し、考察することとした。

1. 高等学校における道徳教育

(1) 高等学校での道徳教育の重要性

高等学校における道徳教育の考え方については、現行の高等学校学習指導要領総則編の中で、「人間としての在り方生き方に関する教育」⁽⁵⁾について、次のように示されている。

「高等学校においては、生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階にあることを考慮し、人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより、道徳教育の充実を図ること」として、さらに「高等学校段階の生徒は、自分の人生をどう生きればよいか、生きるの意味は何かということについて思い悩む時期である。また、自分自身や自己と他者との関係、さらには、広く国家や社会について関心をもち、人間や社会の在るべき姿について考えを深める時期でもある。それらを模索する中で、生きる主体としての自己を確立し、自らの人生観・世界観ないし価値観を形成し、主体性をもって生きたいという意欲を高めていくのである。したがって、高等学校においては、このような生徒の発達の段階を考慮し、人間の在り方に深く根ざした人間としての生き方に関する教育を推進することが求められる。」

「人間は、同じような状況の下に置かれている場合でも、必ずしもすべて同じ生き方をするととは限らず、同一の状況の下でも、いくつかの生き方が考えられる場合が少なくないが、こうした考えられるいくつかの生き方の中から、一定の行為を自分自身の判断基準に基づいて選択するということが、主体的に判断し行動するということである。社会の変化に対応して主体的に判断し行動しうるためには、選択可能ないくつかの生き方の中から自分にふさわしい、しかもよりよい生き方を選ぶ上で必要な、自分自身に固有な選択基準ないし判断基準を

もたなければならない。このような自分自身に固有な選択基準ないし判断基準は、生徒一人一人が人間存在の根本性格を問うこと、すなわち人間としての在り方を問うことを通して形成されてくる。また、このようにして形成された生徒一人一人の人間としての在り方についての基本的な考え方が自分自身の判断と行動の選択基準となるのである。」

要するに、高等学校における道德教育の役割が、小・中学校の義務教育を修了して、社会人直前（公職選挙法改正による選挙権年齢の引き下げ実施なども踏まえて）の高校生一人一人に対して、人間としての在り方・生き方（大切な人間存在の根本＝自己基盤形成）を深く考えさせることに重要な意義があると指摘しているのである。

また、平成23年6月に策定された愛知県の「あいちの教育に関するアクションプランⅡ」では、多くの県民の参加により道徳性・社会性の向上を図ることを重点目標として、道德教育の充実が、県内の学校・家庭・地域の連携によって取り組むべき重要な施策とされている。

そこで、実際の高等学校現場での様々な課題や問題点は、次のように整理できる。

- (ア) 高等学校では、カリキュラムの中に、小・中学校と違い「特別な教科 道德」の時間が設定されていない。
- (イ) 高等学校の校内分掌には、小・中学校とは違って道德教育推進教師を置いてなく、主に学級担任によるホームルーム指導での道德教育に依存している。
- (ウ) 高等学校では、各教科の学習指導が中心で、道德教育についての実践研究が少なく、イメージがつかめない。
- (エ) 学校の道德教育指導に関しては、全校の指導目標は設定されており、各分掌や各教科での取り組みも設定されているが、道德教育に特化して全校で取り組むことはなく、意識の面でも全教職員に浸透し充実しているとはいえない。

(2) 小・中・高校の道德教育の接続

次期学習指導要領等に向けた中央教育審議会の「これまでの審議のまとめ」⁽³⁾に、中学校教育と高等学校教育の接続について、次のような指摘がある。

「義務教育段階を終える段階で身に付けておくべき力は何か」、「高等学校卒業の段階で身に付けておくべき力は何か」という観点から、各学校段階で育成を目指す資質・能力を相互につないでいくことが求められる。義務教育を行う最後の教育機関としての役割を担う中学校においては、小学校6年間の学びを中学校での学びにつなげ、義務教育段階で身に付けておくべき資質・能力をしっかりと育成した上で、高等学校の学びにつなげていく視点を一層重視していくことが求められる。」

「高等学校においては、必要に応じて学び直しの視点を踏まえた教育課程を編成して、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図る等、生徒の学習課題に応じた学習の基盤づくりを行い、高等学校段階の学びの共通性の確保を確かなものにしていくことが求められる。」

要するに、小・中学校の義務教育段階で、児童・生徒に身につけさせておくべき資質や能力と

高等学校卒業の段階での資質や能力を、接続する観点から、しっかり育成することが求められている。さらに、高等学校での学びに、義務教育段階の「学び直し」の視点も必要だと指摘されているのは、各教科の学習内容にとどまらず、道徳教育においても同様に考えるべきである。

次に、道徳教育の面からみると、各校種段階の目標を、表1のように整理できる。

表1 校種段階別目標⁽⁶⁾

<p>《小学校段階》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う ○ 道徳的諸価値についての理解 ○ 自己を見つめる ○ 物事を多面的・多角的に考える ○ 自己の生き方について考えを深める ○ 道徳的な判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度を育てる
<p>《中学校段階》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的な判断に基づいて道徳的実践を行う ○ 自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う ○ 道徳的諸価値についての理解を基にする ○ 自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める ○ 道徳的な判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度を育てる
<p>《高等学校段階》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中学校における道徳教育を踏まえる ○ 学校の教育活動全体を通じて行う ○ 生徒の発達の段階を考慮した、人間の在り方生き方に関する教育の推進 ○ 道徳教育の目標（教育基本法の目標と同様） <ul style="list-style-type: none"> (ア) 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う (イ) 豊かな心をはぐくむ (ウ) 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図る人間を育成する (エ) 公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努める人間を育成する (オ) 他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献する人間を育成する (カ) 未来を拓く主体性のある日本人を育成する (キ) 道徳性を養う

以上の各学校段階での目標をまとめると、次のようになる。

小・中学校の義務教育段階では、

- (ア) 他者と共存して、かつ自立した人間としてよりよく生きるために、道徳的諸価値について理解し多面的・多角的に考える力を養い、道徳的な判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と道徳的態度を育てる。しかも、道徳的な実践を伴うこと。

そして、高等学校段階では、

- (イ) 小・中学校との円滑な接続を意識して、小・中学校までの道徳教育を踏まえ、さらに、人間の在り方に深く根ざした、人間としての生き方についての自覚を一層深めさせ、生徒個人の自己実現を図り、主体的に判断し行動できる社会人（日本人）を育成すること。となる。

しかし、このように、小・中学校の義務教育段階と高等学校との接続は、果たして、円滑に、かつ密接に行われているのだろうか。また、生徒個人の中にどのように蓄積され、成長されているのだろうか。課題や問題点はどこにあるのだろうか。高等学校での実際の取り組みを検証してみる必要がある。

(3) 中学校教員・高等学校教員の道徳教育観

以下のように、予備調査として、2017年2月に電話インタビュー等による、教員の聞き取り調査をおこなった。

(ア) 調査対象 A 中学校1校 若手担任：20代男性1名

B 高等学校5校 各1名

- ① 校長：50代男性
- ② 教頭：40代女性
- ③ 学年主任：40代女性
- ④ 中堅担任：30代女性
- ⑤ 若手担任：20代男性

以上6人

(イ) 中学校教員への質問は、次の2点である。

質問1. 勤務校での道徳教育について、その実態と課題を指摘して下さい。

質問2. 道徳教育や規範意識教育における小・中学校から高等学校への接続について、その有無の実態と課題を指摘して下さい。

(ウ) 高等学校教員への質問は、次の2点である。

質問1. 先生は、高等学校の教員として、生徒が小学校・中学校で学んできた道徳教育の蓄積やそれをもとに高校生として成長した面を実感として感じたことはありますか。それはどういうことですか。また、不十分な面は何ですか。それぞれに具体的な事例を挙げて下さい。

質問 2. 先生は、高等学校での規範意識や道徳性の教育・指導について、HR活動や学校行事等の特別活動の中で、きちんと行えていると考えていますか。また、各教科科目学習との関連・影響について、どのように考えていますか。その点について不十分なことは何ですか。その原因は何だと思えますか。

以上 2 点に関する各教員の回答を以下に掲げる。

A 公立中学校教諭 20代男性の回答

質問 1. 教員 3 年目で、3 年生の担任。

生徒の進路指導に時間を取られて、道徳教育の年間計画を追うのに苦労している。中学校では、道徳教育の項目を消化させるだけの状態で、生徒個々人の道徳心の深化まで指導できない。

質問 2. 卒業後に、教え子がよく来校する。彼らは、自分が高校生になっていかに大人になったかを語る。しかし、規範意識面での自己規制について話すことが少ない。

B① 県立高等学校（校長）50代男性の回答

質問 1. 学校全体では生徒は落ち着いて、道徳心は、中学生よりも向上していると思う。

社会が激変してきているので、規範意識の面では、情報モラル教育が、不安である。

質問 2. 高等学校全体の中で指導していくしかない。公民の教科「倫理」の中で、マナーやルールの根本である「価値観」を根本から生徒に問い直させる、考えさせる授業をしていく。

B② 県立高等学校（教頭）40代女性の回答

質問 1. 生徒は、学校内では道徳規範行動を積極的に実行できない。しかし、学校外では、評判が良い生徒が多い。ボランティア活動には、気持ち良く参加できる生徒がいる。自分も親切にされた経験があるので、老人に親切である。

質問 2. 道徳だけでなく、キャリア教育やESD（持続可能な開発のための教育）も含めて学校全体計画を立てて、それを各教科・分掌に下し、検討し実施している。高校生としての「生き方・在り方」を総合的に教育・指導している。やはり担任のHR指導や学校行事・部活動などの特別活動での教育・指導が中心となっている。

B③ 県立高等学校（学年主任）40代女性の回答

質問 1. 生徒は、受け身で、教員が指導すればできる。道徳心（善・悪の理解や判断など）は持っているが、自らの行動に結びつかない。

質問 2. 学校全体で、教員が生徒指導に取り組んでいて、規範意識の教育・指導においても基本から指導する体制ができています。

B④ 県立高等学校（担任）30代女性の回答

質問 1. 「あいさつ」や「友達を思いやる」という面では、小・中学校での道徳教育の成果の蓄積が発揮されている。生徒個々人によって差がある。規範意識の面においては、学校外での行動で、近隣の住民から苦情が寄せられる。例えば、「道路に広が

って歩いて迷惑」「コンビニの入り口をふさいで困る」「電車内での携帯のマナーが悪い」など。しかし、教員目から離れると、友達間の甘えや学校外の自由・開放感から、自分に抑制がかからないことが多い。小・中学校では、地域社会との関係性が深く、児童・生徒自身の行動が道徳的規範の枠内で制御されて、適切な行動をとっている。しかし、高校では、行動範囲が広がりや友人との関係性の中で、より「個人としての判断」に任されることが多いため、道徳観が希薄になる。小・中学校の道徳教育段階で、集団ではなく「個人レベルの判断・行動」まで、「道徳」の意味を理解・浸透させ、行動にまで繋げられるようになっていないからではないかと思う。

質問2. 本校では、道徳教育は形骸化しているとは思わない。常に、生徒全体に働きかける「意識づけ」は必要である。教員側が生徒を信じて指導を重ねていけば、時間がかかっても生徒に浸透していく。高等学校では、中学校とは違うアプローチの仕方が必要だと思う。

B⑤ 県立高等学校（担任）20代男性の回答

質問1. 本校の生徒は、道徳意識が中途半端の者が多い。「真・善・美」などを感じる機会がないように思う。「あいさつ」や「思いやり」などの規範意識の面は、学校の生徒指導で、「人としての規範的習慣」を重点的に指導しているので、学校内では実行できる。しかし、校外における社会人としての行動にまで至っていない。

質問2. 本校では、中学校までの自分から、どのようにして脱皮できるか。高校生として、「ゼロからの出発」をさせるかにかかっている。情報モラルも含めて「人に迷惑を掛けない」「自由とルールの判別」などを、全校あげて教育・指導している。

以上の6人の中学校・高等学校の教員の道徳教育観は、現在の学校現場で指導している教員からの、いわゆる「生の声」だと思われる。あげられた問題点・課題について、以下のように考察する。

- (1) 中学校では、生徒一人一人の個人レベルまでの道徳教育が、不十分である。道徳の時間が設定されていても、指導項目をこなすだけで、生徒が真に主体的に理解し納得し、実行に結びつくまでの余裕が現実にはない。
- (2) 高校へ進学しても、規範意識面での自己規制が確立されない大きな理由としては、中学校と高等学校との接続ができていないので、高等学校での指導の在り方が未確立である。
- (3) 学力の高い進学校の高等学校では、教科「倫理」のなかで、いろいろな価値観を主体的に考えさせることができる。しかし、学力の低い高等学校においては、教科学習での道徳規範指導には限界があると思われる。
- (4) 高等学校では、どの学校でも「あいさつ」「友達への思いやり」などの基本的な道徳心は、ほぼ達成されているが、校外までの行動には結びついていない。

- (5) 高等学校では、ボランティア活動への取り組みは積極的である。しかし、生徒がそれらの活動で得たものを取り込んで、自分の生き方に通じる、道徳規範の確立まで至っていない。
- (6) 高等学校における道徳教育は、学校全体の生徒指導に負うところが大きい。これは、学力面での相関関係があるのかという点については、今後の研究課題である。
- (7) 生徒は、集団を離れた時の、個人への規範道徳意識の浸透は時間がかかる。この点については、高校生段階での教育・指導よりも、小・中学校までの積み重ねが重要になる。
- (8) 高等学校では、やはり担任のHR指導や学校行事・部活動などの特別活動での教育・指導が中心となっている現状があるので、学校全体での教育・指導の在り方が問われている。
- これらの学校現場からの問題提起に対して、さらに詳細に分析し研究していく必要がある。そこで、まず、高校生の道徳規範意識について注目したい。

2. 高校生の道徳規範意識

(1) 道徳規範意識

平成18年12月に改正された教育基本法第6条には、「教育を受ける者が、学校生活を営む上で必要な規律を重んずる」ことが規定され、翌平成19年の学校教育法の改正において、「学校内外における社会的活動を促進し、自主、自律及び協同の精神、規範意識、公正な判断力並びに公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと」が、目標として掲げられている。

平成19年5月には、衆議院の教育再生に関する特別委員会によって、「規範」の定義が議論された。「ある物事に対しての是非、善悪を判断、評価したり、行動したりするときに、よりどころとなる価値の基準をいう。法律、ルール、道徳、その他の慣習が基準となりうる。」

また、一般に、「規範意識とは、集団にある規範に対する行為者の価値意識や、それに従おうとする態度である。」と考えられ、「集団の構成員は、その集団が集団として機能するよう、集団の規範に同調することが求められる。」とも言われている。

例えば、「人の物を盗る」「きまりを守る」等については、集団や他人に対して著しい迷惑行為であるとして、誰でも規範意識が働くけれど、学校やクラスのルールや決まりごと等では、小学校から中学校、高等学校へ進むと、規範意識が薄れてくる。⁽⁷⁾

しかしながら、現代においては、グローバル化が急激に進み、ますます国家間の競争に巻き込まれ、学校教育も同様な変化を余儀なくされている。つまり、ルールや決まりときちんと守らせ、逸脱や混乱を防ぎ、秩序を確保して安全・安心を実現するための「規範教育」が要請されるようになる。⁽⁸⁾

次の項で、小・中・高校生の道徳規範意識の調査結果を分析して、特に高校生の道徳規範意識について考察する。

(2) 小・中・高校生の道徳規範意識の実態

平成26年5月から7月にかけて、愛知県内の小・中・高・特別支援学校に在籍する児童・生徒及びその保護者への意識・実態調査結果がある⁽⁹⁾。対象は小学5年生・中学2年生・高校2年生及び特別支援学校のそれに相当する学年の児童生徒1,569人、保護者1,424人である。

児童・生徒への意識・実態調査項目のうちで、本研究と関係のある、道徳規範意識等の項目について、小・中・高との比較で注目すべき項目を抽出した(表2)。

なお、回答の割合は、4件法形式の“よく当てはまる”と、“どちらかといえば当てはまる”を合わせた“当てはまる”を示す(表3)。

表2 質問事項

質問1. 約束や決まりを守ることは大切である。
質問2. 約束や決まりを守っている。
質問3. 人の気持ちがわかる人間になりたい。
質問4. うそをつくことはいけないことである。
質問5. いのち(人や動物、植物)は大切である。
質問6. いのち(人や動物、植物)は大切にしている。
質問7. 人にやさしくすることは大切である。
質問8. 人にやさしくしている。
質問9. 人に会った時にあいさつすることは大切である。
質問10. 人に会ったらあいさつをしている。
質問11. お世話になった人々に感謝をすることは大切である。
質問12. 日頃お世話になっている人々に感謝の気持ちを伝えている。
質問13. 人が困っているときは、進んで助けている。
質問14. よいことをして、身近な人(家の人や先生)にほめられる。
質問15. 悪いことをして、身近な人(家の人や先生)にしかられる。
質問16. 自分のしたことで、近所の人から注意される。
質問17. わたしは、人の役に立っている。
質問18. わたしは、自分のことが好きである。
質問19. わたしは、困難にあっても、粘り強くがんばることができる。
質問20. 将来の日本をよくする人になりたい。

表3 児童・生徒の意識・実態調査結果一覧

	小学校5年生	中学校2年生	高等学校2年生
質問1	94.9%	93.5%	96.5%
質問2	81.1%	79.3%	80.7%
質問3	94.3%	91.3%	93.6%
質問4	95.1%	88.8%	86.1%

質問 5	97.8%	95.5%	95.4%
質問 6	81.1%	79.3%	80.7%
質問 7	97.4%	94.9%	95.7%
質問 8	86.0%	81.7%	83.6%
質問 9	96.8%	93.7%	94.1%
質問10	87.9%	81.7%	75.6%
質問11	97.5%	95.5%	96.6%
質問12	70.5%	56.4%	54.8%
質問13	78.2%	75.1%	75.6%
質問14	77.1%	69.0%	60.0%
質問15	58.3%	62.7%	57.5%
質問16	17.6%	13.7%	11.9%
質問17	64.2%	52.3%	43.4%
質問18	60.0%	47.1%	37.8%
質問19	65.4%	56.0%	54.0%
質問20	76.2%	65.0%	62.7%

以上の調査結果について、次の3点から考察する。

(ア) 小・中学生と比較して、高校生が低い道徳規範意識について

- 質問 4 うそをつくことはいけない (86.1%)
- 質問10 人にあいさつができる (75.6%)
- 質問14 良いことをしてほめられる (60.0%)
- 質問17 人の役に立っている (43.4%)
- 質問18 自分のことが好き (37.8%)
- 質問20 将来、日本をよくする人になる (62.7%)

上記の質問 4、10、14、20等は、低いといっても、まだ6割以上の生徒が自覚して行動しているので、今後の教育・指導の余地はあると思われる。しかし、質問17、18のように、自己存在感や自尊感情について、極端に否定的にみている5割以上の生徒がいることは、早急に対策を講ずる必要がある。一般的に、生徒指導とは、「児童・生徒が、学校生活の中で、その社会的資質を伸ばすとともに、さらなる社会的能力を獲得していく、つまり社会性を育成し、自己の幸福と社会の発展を追求していくこと（自己実現）ができるように、その成長や発達を促したり支えたりする意図でなされる働きかけ」⁽¹⁰⁾ という。高等学校の中での道徳規範意識の教育・指導は、生徒指導だけでなく、特別活動も含めて全校的に取り組む工夫が必要である。

(イ) 理解と実行が乖離している、高校生の道徳規範意識について

- 質問 1 約束や決まりを守ることは大切である (96.5%)
- 質問 2 約束や決まりを自分でまもる (80.7%)
- 質問 7 人にやさしくすることは大切である (95.7%)

- 質問8 人にやさしくしている (83.6%)
- 質問9 人にあいさつすることは大切である (94.1%)
- 質問10 人にあいさつができる (75.6%)
- 質問11 人に感謝をすることは大切である (96.6%)
- 質問12 人に感謝の気持ちを伝えている (54.8%)

上記のように、一般論としては、9割以上の生徒が理解しているが、いざ自分のことになると自信が持てない、実行できないのである。これは、学校現場で指導している教員の聞き取り調査にも言及されている。高等学校において、「人間としての在り方生き方に関する教育」を推進しようとしても、現実に生徒自身の実行が伴わない道徳規範意識の教育・指導は、何らかの問題があると思われる。再検討する必要がある。

(ウ) 道徳心の根幹である「他人への扶助」「いのちを守る」等の高校生の道徳規範意識について

- 質問3 人の気持ちがわかる人間になりたい (93.6%)
- 質問7 人にやさしくすることは大切である (95.7%)
- 質問6 いのちを大切にしている (80.7%)
- 質問13 人が困っているときに進んで助ける (75.6%)

上記のように、高い割合を示している。高校生ともなると、自分を客観的にみることもできるから、自分にも道徳心の根幹はあると思いたい、他人からそう思われたい、という意識の表れではないかと考える。なぜならこれらの質問項目の中2では、質問3 (91.3%)、質問7 (94.9%)、質問6 (79.3%)、質問13 (75.1%)となっていて、どの項目も高校生より低い割合を示しているからである。このことから、高校生より中学生の方がより道徳心の根幹が少ない、のではなく、自分はそうあるべきだと思うし、そうしたいが、出来ない自分と葛藤している正直な自分が数値に現れていると思われる。要するに、このような道徳心についての道徳規範意識を教育・指導するのは、高等学校段階よりも、小・中学の義務教育段階で児童・生徒個人へいかに浸透されうるのかという点が重要だと考える。

(3) 新たな調査研究の設計

この「高校における道徳教育のあり方に関する研究」を基礎にして、次の課題は、公立高等学校の1年生・2年生へのアンケートや学級担任教員からの聞き取りの本格的調査を実施・分析して、特に自己規律向上・規範意識育成の指導を中心にした高等学校での道徳教育指導法についての研究を深めていくことである。また、高等学校での道徳教育について、新たな視点(アクティブ・ラーニングの視点)を持って再構築するために、中核教科として位置付けられる新教科「公共」や「倫理」において獲得される「見方・考え方」や特別活動での実践的指導法などを考察して、特に、学力面での上位高校と下位高校の生徒の実態を踏まえて、高等学校における道徳教育のあり方に関する提言をしていく研究をすることである。

ここでは、本研究で得た知見を改めて列記して、次の調査研究の課題としたい。

1. 高等学校の中での道徳規範意識の教育・指導は、生徒指導だけでなく、各教科指導や特別活動も含めて全学的に取り組む工夫が必要であるが、指導する担任が参考にして、実践できる具体的なモデルプランを数多く提示する必要がある。
2. 高等学校において、「人間としての在り方生き方に関する教育」を推進しようとしても、現実に生徒自身の実行が伴わない道徳規範意識の教育・指導は、何らかの問題があると思われるので、再検討する必要がある。
3. 道徳心についての道徳規範意識を教育・指導するのは、高等学校段階よりも小・中学の義務教育段階で、児童・生徒個人へいかに浸透されるのかという点が重要だと考える。

(注)

- (1) 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 改定の経過 文部科学省 平成27年7月
- (2) 同上 道徳編 道徳科の目標 文部科学省 平成27年7月
- (3) 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会第2部(情報・道徳教育) P.293～ 平成28年8月
- (4) 中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」 平成26年10月
- (5) 高等学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省 平成21年7月
- (6) ・小学校学習指導要領 特別の教科 道徳編 道徳科の目標 文部科学省 平成27年7月
・中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編 道徳科の目標 文部科学省 平成27年7月
・高等学校学習指導要領解説 総則編 第3章第1節 2道徳教育 文部科学省 平成21年7月
以上から抜粋
- (7) 規範意識を高める学校・家庭・地域の相互連携の在り方に関する研究 愛知県総合教育センター研究紀要 第99集 平成21年
- (8) 松下良平「これからの道徳教育を構想する」新・教職課程シリーズ「道徳教育論」編著 P.207～208 2014年4月
- (9) 児童・生徒及びその保護者への意識実態調査結果 愛知県総合教育センター研究調査 平成26年
- (10) 生徒指導リーフ「生徒指導って、何？」国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 平成27年3月 2版

受理日 平成29年3月24日